発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番 ③3034番
編集兼発行人 古賀徳雄
年間600円 送料共

七日の参議院議員選挙には、働く者の生命を守り、生活と権利、平和のための一票を投じましょう！

当面反合理化・CO闘争で
参議院選で佐藤倒そう!!

定期総会

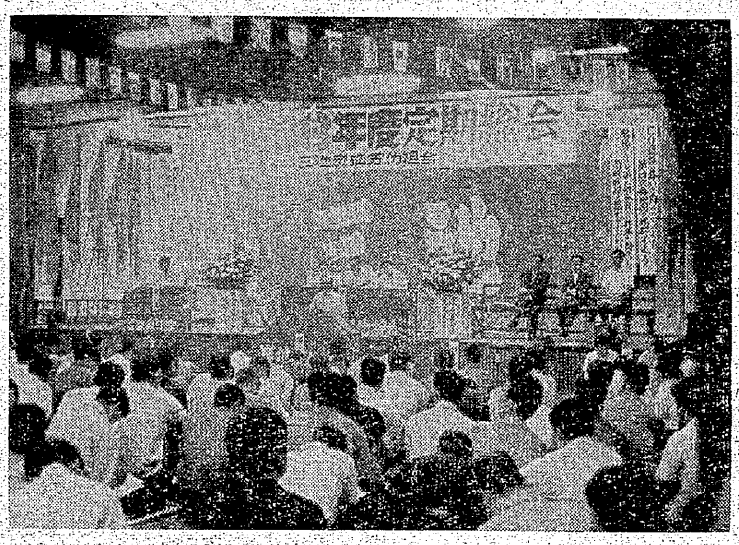
去月三十日、三池労組は過去一年間の闘争を総括し、これから一年間＝一九六八年度の運動方針を確立する定期総会を開催した。(四山講堂)

実は新年度の行動方針は、なにはおいてもはげしく闘ってきたCO闘争の経験を総括するという重要な作業に加えて、国民のこれからの進路を決定するといわれるほど重要な参議院議員選挙がやってきたなどの事情から「ベトナム反戦・沖縄即時返還・原潜寄港阻止・軍事基地撤去の闘いを強化しよう」「一九七〇年度を目指し、佐藤自民党内閣を打倒しよう」「炭鉱国有化を闘いとり、政府の石炭政策を粉砕しよう」「CO・遺族の闘いをみずからのものとし、第四次合理化を粉砕しよう」「長期抵抗路線にもとづく大衆闘争路線を、みんなのものにしよう」「職場における第二組合員との共闘を強化し、階級戦線の拡大を闘いとろう」とするスローガンの指同にもとづき、新執行部で方針案を作製し、臨時総会で決定することにきまった。

それまで組合としては、①当面する参議院議員選を勝ちぬく。②第四次合理化反対にそなえ、CO闘争をもりあげる。③炭労の国有化闘争をともに闘い、石炭政策粉砕・反合理化闘争を強めてゆくことになった。

以上のほか、決算、予算、規約、機構改正などを決定した。

この日社共両党の代表をはじめ向坂逸郎元九大教授ら来賓が挨拶を贈ったが、なかでも、いつもに変らぬ信念に満ちあふれた向坂先生の「三池とともに闘う」という言葉は、暖いはげましとなった。



やはり、厳粛な空気がただよう総会だったが、前途のけわしさを思わせて参加者の表情はきびしかった。

つくられる基地災害
とんでもない「安保公害」論
危険"保障"する 安保と地位協定

またか……続発する基地災害。自民党の福田幹事長によれば、「安保体制は日本にとって空気のようにありがたいもの」「基地の被害は公害みたいなもんさ。公害がひどいからって、空気をなくすわけにゃいかんだろ」ということですが。はたして、安保は「空気のように必要」なのか、どうか——。【KNA】

米機墜落事件

六月二日、九州大学に米空軍のF4Cファントム戦闘爆撃機が墜落しました。現場は放射性物質の格納庫のすぐ近く。一歩まちがえば"原爆一発"の大惨事になるところでした。板付空港周辺の米軍機墜落事件は過去二十年間に三十件もあります。

板付基地は日米安保条約の地位協定で米軍へ提供された基地。「米軍に支障ない限り」で日本航空など六社の民間航空が「一時使用」を認められています。地位協定にほかにも米軍のため、気象情報の提供義務や、空港への着陸料(一回八万円)免除の特典を与えています。政府は板付基地の移転方針を決めたといいますが、移すだけでは被害も"移転"するだけで、なんの解決にもなりません。

都心の燃料輸送

"過密都市"東京都心を突っ走る米軍ジェット機用の燃料輸送を多くの都民は知りません。一つのルートは川崎市の国鉄浜安善駅から中央線と南武線を利用して、立川、横田の米空軍基地へ。米軍は七月一日から一日百二十両(現在八十両)に増車することを要請。国鉄当局は「安保条約に基づく役務提供の義務だから断われない」(地位協定七条)とあきらめています。

燃料輸送はほかに横浜から国道十六号線を横田へ、また横須賀からパシケで東京湾→荒川を北上、東京北部の板橋で陸揚げされて横田へトラック輸送されています。火薬、弾薬輸送は横田→北九州、呉、博多とひんぱん。日本中が危険物の上に乗っかっているのです。

佐世保放射能事件

佐世保港の放射能汚染で問題になっている米核潜水艦ソードフィッシュ号(五月十一日入港)。それが佐世保に入港中、原子炉に故障を起こし、そのため"死の灰"のまざった一次冷却水が流れ出たのではないかと疑いが出ています。当時、同艦が修理のため出港を延期したのは周知のところ。

もし、原子炉故障が事実とすれば、放射性物質ストロンチウム90が長期にわたって湾内の海水、微生物(魚のエサ)を汚染します。日本本土へ核潜水艦入港はすでに二十三回。ところが佐藤首相は、「安保条約で日本の施設を米軍が使う義務がある。この程度のことで(核潜の入港を)断わることに値するかどうか」(五月十三日衆院決算委で)といっているのです

米軍野戦病院

四月に開設した東京・王子の米軍野戦病院。そこに突然、マラリア患者六人が収容されていることがわかり、大きな問題になりました。病院に運び込まれる伝染病患者の対策は、一昨年一月、米軍と外務省の書簡で、ペスト、コレラ、発しんチフス、天然痘、黄熱、回帰熱の六種(検疫伝染病)以外の患者(日本の法定伝染病と届け出伝染病)について、米軍は自由に入院させることができるたてまえ。

日本側にできることは、必要に応じて防疫担当官と保健所長が病院内を調査することですが、今回は調査すらしていませんでした。地元の都営団地ではもっぱら、暑い盛りに窓を閉め切って、蚊の侵入を防ぐ"自衛手段"しか残されていないのです。

事実をよく見て
推薦候補の当選を
職場新聞"めざまし"から

今国民の最大の関心をあつめている参議選は、第一に日本をアメリカの従属国にするか、しないかの政治決戦の闘いであると思います。

社会党顧問鈴木茂三郎氏は重光外相から「米国は憲法改正、自衛隊拡張、海外派兵の怖るべき対日野望を抱いていることが、新安保の予備交渉でわかった。千島を放棄してでも日ソ平和条約を締結して米国の野望をおさえなければ、日本は安全でない。社会党の外交路線が正しい」という意見を直接聞いたと発表しています。

米機の九大墜落事件を見るまでもなく日本が完全な基地として大国との戦争に発展した場合、その時日本は米国と対等に話しができるはずがなく、もはやアメリカの言うなりである。

民社は、米軍の有事駐留という誤魔化しで安保を認め、ベトナム戦はアメリカの侵略ではないと言い、憲法違反の自衛隊を認め、自民党と変らない。

第二に、国民生活は生産性が上がり豊かになったといいます。しかしすべての物価は上がり、生活は良くなるどころか、悪くなる一方。

このことは大企業中心の政策、資本主義国の必然的な姿であり、根本的にあらためなければならない。社会党の主張する物価政策こそ正しいのです。

第三に労仂問題ですが、自民党そのものが資本家であり、その代弁者である以上その炭鉱の合理化政策が今日の炭鉱災害を引きおこし、労仂者に犠牲を強要しているのです。その他公害、減税、社会補償、教育科学、交通公害等々数かぎりなく、仂く国民として十分考える必要があると思います。

資本家が、政府自民党が、もっともおそれている社会党、それは労仂者の要求を実現させる最大の政党だからです。

ですから私たちはこんどの参議院議員選挙で、ぜひとも仂く者の真の代表、組合推薦の四候補を当選させましょう。

スミがなくなれば放り出される

私は、今回の参議院選挙を労仂組合はどう考えるのかということをお話ししたい。

今日の新聞をみると、経済企画庁が「新全国開発計画」というものを発表した。それによると、今後二十年間に、札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡の各都市を日本の産業の中心地にし、日本の産業構造を作りかえようとしている。

これによると、大牟田からは工業をなくしてしまい、太平洋ベルト地帯に労仂者を集めるということになる。

ところがわれわれ労仂者の生活はどうなっているのか。労仂者は低賃金のなかで、月末になると親子の生活する金がたらなくなるという状況ではないか。そんなときは、親や兄弟にたよってやっと生きのびているのが現状ではないか。ところがこの計画では親も子もバラバラに引きはなしてしまうということだ

炭鉱の合理化でも、スミがなくなればみんな都会に放り出されてしまったではないか。

喰わせろ

日本の資本主義はヨーロッパの先進国なみに成長したといわれている。それならばわれわれ労仂者にも仂けるように肉を食わしてくれ、四DKに住まわせて、疲れたときは休ませてくれいるではないか。

私たちの今日の問題は、安保もあるが、政府が大企業中心か、仂く者を中心にやるかの分れ道でもある。日本の生産高はやがてアメリカをも抜くだろう。しかし日本の人口は十年先きには七千万人になり、二十年先きには五千万人に減るといわれている。

生産高は世界一になっても、労仂者には二人までしか子どもをもてないという現実はつづくのだ。

それなら、日本の将来は工場だけ残って人間がいなくなるという破滅に進むことになる。

今日こそ自民党のこのようなやり方をたたくために社会党が必要なときだ。

(これは六月二十八日行なわれた大地評決起集会での演説を編集部でまとめたものです)

工場だけ残って
人間がいなくなる
この自民党の政策を叩け

前総評議長太田薫氏の演説から

われわれはこのような独占資本の金もうけのためだけの計画を許してはならない。

いまや労仂組合は合理化反対闘争とともに政治権力をめざして闘かわなければ、労仂者の生活はダメになってしまう。

ヨーロッパなみに

と要求しようではないか。

観光道路建設に使うだけの金があるならば、それを国鉄に使えば料金値上げの必要もないし、物価は上がらない。

私たちの子どもの教育はどうか。四分の一しか国から補助されずに、高い金を出させられて